

平成27年度 事業概要

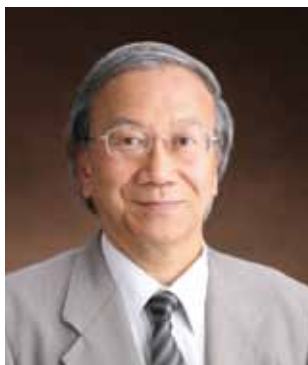
あゆみ

第65号 平成28年7月

目次

所長あいさつ	2
平成27年度 新聞記事	4
沿革	6
組織体制	14
献血の概況	16
献血推進の概況	18
骨髄ドナー登録事業	21
検査・製剤の概況	22
供給の概況	24
医薬情報活動の概況	25
統計資料	26
平成27年度 表彰	32
平成27年度迄の献血記録	34

所長あいさつ



群馬県の血液事業の推進につきましては、日頃より県民の皆様の人道的な善意とご協力、また、これを支えてくださる協力団体やボランティア、県・市町村関係者の皆様、医療機関、関係各位のご協力とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成27年度も皆様の温かいご指導とご支援を賜り、県内の医療機関からの輸血用血液製剤の要請に滞りなくお応えすることが出来ました。血液事業は、平成24年4月から血液製剤の安全対策の充実、安定供給、事業運営の効率化、健全な経営基盤の確立を目的に都道府県の枠を超えたブロック単位の広域事業運営体制に移行しており、各センターが協働し目標達成に向け努めております。

平成27年度の輸血用血液製剤の供給状況は、各製剤の単位数を本数とした換算数では、316,255単位で前年度より7,952単位の増加（前年度比2.6%増）となりました。

現在、日本は本格的な少子高齢社会を迎えており、輸血用血液製剤や血漿分画製剤の多くは50歳以上の方に使われております。一方で、献血をいただいている方の約70%は50歳未満となっております。少子高齢化の影響で輸血用血液製剤等を必要とする方が増え、若年層の献血者数は減少傾向にあり、献血者の確保は年々厳しい状況となっております。

また、昨今輸血を受ける患者さんの負担軽減、副作用発生リスクの低減のために、医療機関からは400mL献血由来の血液の発注が圧倒的に多くなっております。

そこで平成27年度では400mL献血率の向上を目的に北関東3県（茨城・栃木・群馬）の所長が協働し、北関東高校献血打合せ会を設置及び開催（年3回）、所長及び担当者（部長・課長・係長・担当主事）の意見交換を活発に行い400mL献血者確保を中心とした高校献血の実施や若年層献血者、複数回献血者の推進広報活動及び献血環境の見直しを実施した結果、献血者数は、80,969人と前年度より4,670人の減少（前年度比5.5%減）となりましたが、400mL献血率は92.9%（平成26年度80.6%）を達成することが出来ました。

その他の当センターの献血者確保対策として、献血年齢に達していない、小・中学生を対象にした「親子献血教室」や「献血セミナー」、新たな体験学習として「キッズ献血」の実施など、楽しみながら献血の重要性を理解してもらえるイベントを開催しました。

様々な活動を通して、献血者の善意の血液を必要とする患者さんにお届けできるよう努めておりますが、先ほども申し上げましたとおり血液事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。今以上に他県センターとの情報交換を積極的に行い、柔軟な発想で事業運営基盤を充実させ、平成28年度においては若者への献血啓発と献血協賛企業のさらなる確保および献血環境の改善等による複数回献血者の確保を柱にした献血者の確保により、1稼働効率の向上を目指したいと考えております。

併せて、医療機関への血液製剤の供給の取り組みといたしまして、医療機関からの要望に適切に対応できるよう、安全な輸血用血液製剤の安定供給と医療機関へ情報提供等を行い適正使用の推進を図ってまいります。

今後も職員一同、なお一層の取り組みを進め、より安全な輸血用血液製剤の安定供給に向け、引き続き努力してまいりますので、皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに平成27年度の実績をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

平成28年 4 月
群馬県赤十字血液センター
所長 林 泰 秀



上毛新聞 平成27年7月27日(月)

県赤十字血液センター
夏に減少する
献血へ協力を
広報活動を強化

夏場には際、献血量が減ってしまう。と、県赤十字血液センターが積極的に献血を呼び掛けている。暑さから外出し控える人が多く、企業、学校の夏休みの時期と重なるのが要因で、センターは広報活動を強化している。

セターによると、2011年7月は平均2000人と4000人の献血によって作られる赤血球製剤で、夏場で減少傾向にあることを考慮した計画で、達成率は94.3%にとどまった。献血から作られる赤血球製剤と全血製剤は2日間、血小板製剤は1日間とそれぞれ

れ採血後の有効期限があり、長期保存はできない。県内では、日約300人の献血が必要である。

セクターは献血に関して理解を深めてもらうと夏休みに入る、広報やイベントに力を入れる。7月26日には、運営協力するボランティアグループ「高熱熱血俱樂部」のメンバーや大崎駅周辺で生活活動とパレード(8月4・5の両日)は、夏休み親子献血教室を開き、献血バスなどの見学機会を設けたり、献血の疑似体験、輸血用血液に調整する過程などを公開した。

セクター献血推進課長の渡辺幸子(50)は「関東甲信越ブロックで競速し合う態勢を取り、すぐに輸血がでなくなるような事態にはならなく、若い世代を含めて積極的な献血への協力をお願いしたい」と話している。

自動車大学校が
献血貢献最高賞

県献血功労者等表彰式が29日、県庁で開かれ、献血薬に貢献した44名の団体と個人に感謝状と表彰状が贈られた。最高賞の厚生労働省表彰は、群馬自動車学校が受け、最優秀は、群馬県社会福祉部長が、献血は地域医療を根柢から支える、血液安全確保へ今後とも支援を



上毛新聞 平成27年7月30日(木)

ザスバ パナソニック
献血推進で
選手ポスター



異効十字血型セターは、サッカーなどのザスパクサツ群馬とラクビのバナニツとタイワルダイの選手を起用した駄作のポスターを作った。各チームの選手が、医療機関に献血すると、副作用が起きる可能性がある。	40Qは献血を呼び掛けている。同センターによると、一人一人の血液は同じ血液で、微妙に異なるため、複数の献血者の血液を合わせて患者に輸血すると、副作用が圧倒的に多	40Qは献血を呼び掛けている。同センターによると、一人一人の血液は同じ血液で、微妙に異なるため、複数の献血者の血液を合わせて患者に輸血すると、副作用が圧倒的に多	異効十字血型セターは、サッカーなどのザスパクサツ群馬とラクビのバナニツとタイワルダイの選手を起用した駄作のポスターを作った。各チームの選手が、医療機関に献血すると、副作用が起きる可能性がある。
---	---	---	---

上毛新聞 平成27年9月6日(日)

三山春秋

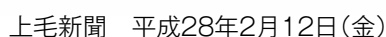
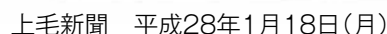
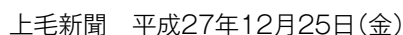
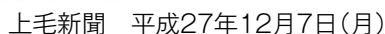
「積極的な協力力をお願いし血液すゝ異歩と止血薬センターのホームページで献血状況を覚えて、きょうはA、O、B、AB型とも「やや不足」を示す同じイラストが並んでいる」猛暑で外出を控える人が多く、企業、学校の休みのと重なるためだろう、夏場の献血量が減っている。きょうの本紙によると、先月、献血剤の計画に対する達成率は94.3%。献血を員化した目標に届いておらず、今月も同じ状況が続いている▼このため、センターはボランティアグループとの協力を得て街頭宣伝活動を行ったり、理解を促してもらうための親子献血教室を開く

として、協力者の確保に躍起となっている▼昨年度の県内の献血人数は8万5千人余り。過去5年間では最低となる中、特に力を入れたのは本県に限らず、全国的な傾向でもある▼2013年度、本県の10代（16～19歳）の献血率は17・7％、20代は8％、30代は7・9％だった。いずれも全国平均を上回ったものの、20代は国の中期目標に掲げた「81％に達していない」▼献血は件付きで69歳までの高齢者（献血可能人口が減り、血液の供給量の増加が見込まれる中、血液を必要とする患者供給を受けつけない事態を招かないよう、若年層の関心を高める）

2015.8.21

上毛新聞 平成27年8月21日(金)

「ハロウ・トゥ・獻血
ザスパのボスター」
をテーマに、多田幸雄、吉原真生が
巨匠の巧み選手がで
て献血の選手掛け
ワルドナイツのワ
イタは、リリしい
の田野等、男ま
郎田野と共に
ＹＡＱＱの文
本スターは自
高校、企業などでも
してらうほか、高
橋、本田の献血
希望者（赤血
）から、ザスパは
ワイルドナイ
ポスターはずで
している。
間、合わせは簡
便、ＱＱの
４２１０２へ



沿革

●1962年（昭和37年）

- 8.15 県、市町村の援助により血液銀行を新築[建設面積 209.51㎡]
- 9. 1 初代所長 久保園善次郎就任（兼前橋赤十字病院院長）
- 10.20 血液銀行採血業許可証認可となる（厚生省群第9472号）
医薬品製造業認可証認可となる（第8356号）
医薬品販売業認可証承認となる（第43号）
群馬県赤十字血液銀行の業務開始
移動採血車第1号（2ベット）を整備
愛称を県民より募集し「（おおとね号）」と決まる
ABO式血液型（オモテ・ウラ）Rho 式血液型
梅毒血清学的検査（ガラス板法・緒方法）
O型力価測定（Low、High）実施



●1964年（昭和39年）

- 8.21 閣議決定（献血の推進について）
- 9. 肝機能検査（S-GOT）開始

●1965年（昭和40年）

- 2.13 血液銀行を血液センターに改称
- 8.13 移動採血車おおとね2号（3ベット）を整備
- 8.16 第2代所長 吉野文郁就任

●1966年（昭和41年）

- 3.31 事務室、保存室、検査室を増築（全建設面積 381.08㎡）となる

●1967年（昭和42年）

- 2.24 血液運搬車車庫を新築（45.37㎡）

●1968年（昭和43年）

- 3.26 移動採血車おおとね3号（2ベット）を整備（採血車3台となる）
- 9. 4 移動採血車第1号を廃車（37年整備）（採血車2台となる）

●1969年（昭和44年）

- 3. O型力価測定廃止

●1970年（昭和45年）

- 1.24 開設以来延べ献血者10万人達成
- 9. 不規則抗体スクリーニング検査開始

●1971年（昭和46年）

- 4. 1 血液代金差額について国庫補助を受ける（昭61.3.31廃止）
- 4.15 群馬県交通安全保障協会より血液運搬車1台寄贈
- 7. 1 HBs抗原検査開始（SRID法）開始
- 9. 4 移動採血車車庫を新築（108㎡）

●1972年（昭和47年）

- 1. 1 免疫電気泳動法（IES法）にてHBs抗原・抗体検査を開始
- 3.23 移動採血車おおとね1号（3ベット）を整備（採血車3台となる）

●1973年（昭和48年）

- 6.21 赤十字アルブミン20販売開始
- 11.20 移動採血車おおとね2号（4ベット）を更新（40年整備）

●1974年（昭和49年）

- 4. 1 血液代金自己負担金給付制度開始（昭61.4月廃止）
- 9.24 成分製剤11品目の許可を受ける

●1975年（昭和50年）

- 1.15 はたちの献血キャンペーンはじまる

- 8.19 移動採血車おとおね3号（4ベット）を更新（43年整備）
- 10. 梅毒検査緒方法よりRPR法に変更

●1976年（昭和51年）

- 10. 2 成分製剤2品目追加許可を受ける
- 11.27 トヨタ・カローラ群馬、カローラ高崎より献血運搬車1台寄贈

●1977年（昭和52年）

- 6. 7 上毛新聞社「愛の募金」より献血運搬車1台寄贈
- 12. 1 物置を新築28.32㎡

●1978年（昭和53年）

- 3. 4 開設以来延べ献血者数50万人達成
- 10. 1 HBs抗原検査IES法よりR-PHA法に変更

●1979年（昭和54年）

- 11. 1 採血容器を瓶からバッグに全面変更する
- 11.26 移動採血車おとおね5号（5ベット）を整備（採血車4台となる）

●1980年（昭和55年）

- 3.26 検査サービス室、製剤準備室を増設（本館全建物面積 417.14㎡）
- 7. 肝機能検査S-GOTよりS-GPTに変更
- 10. 1 献血登録制を始める

●1981年（昭和56年）

- 5. 7 生化学的検査機器ACA6008Nを導入
- 6. 2 抗HBs人免疫グロブリン「日赤」の販売開始
- 9. 1 生化学的検査結果の異常者への通知を開始
肝機能異常者でHBs抗原陽性者へ通知を開始
- 12.18 日本石油より献血運搬車 日産 セドリック（ミスターセイフティー号）1台寄贈

●1982年（昭和57年）

- 4. 1 献血手帳の一部改正となる（供給記録欄を削除）

生化学的検査結果全員通知を開始

- 8.27 移動採血車おとおね1号（4ベット）を更新（47年整備）

- 9. 1 HBs抗原検査結果陽性者に通知を開始

●1983年（昭和58年）

- 8. 9 開設以来延べ献血者100万人達成

●1984年（昭和59年）

- 3. 8 血液製剤1品目（分画プラズマ）の製造許可を受ける
- 4. 5 赤十字アルブミン50供給販売開始
- 7.24 移動採血車おとおね3号（4ベット）を更新（50年整備）
- 12.20 県、市町村の補助を受け血液センターを新築移転（建物面積2,660.07㎡、車庫480㎡、物置7.2㎡）
- 12.24 医薬品製造業許可第8581号を受け業務開始
血液センター採血業許可証 厚生省収薬第34214号
成分製剤2品目の追加製造承認を受ける



●1985年（昭和60年）

- 3.28 HBワクチン用製剤2品目追加製造許可を受ける
- 7.30 移動採血車おとおね6号（4ベット）を整備（採血車5台となる）
- 3.31 国庫金による血液代金給付制度廃止

●1986年（昭和61年）

- 4. 1 採血及び供血幹旋業取締法施行規則の一部

沿革

改正（400mL・成分献血が導入）

第3代所長 藤井佐司就任

群馬県献血推進員2名設置

7. 生化学自動分析装置 機種変更
（ACA6008NよりACA8000へ）

- 9.12 移動採血車おとおね2号（4ベット）を更新（48年整備）

- 9.16 多目的血球計数装置E-4000整備

10. 1 HTLV-I 抗体検査開始（PA法）

- 10.16 HIV抗体検査開始（ELISA法）

11. 6 成分採血装置V50整備し成分採血を開始

- 12.18 血液検査（血算）サービス開始

- 12.23 移動採血車おとおね7号（4ベット）を整備（採血車6台となる）

●1987年（昭和62年）

- 7.31 開設以来延べ献血者150万人達成

10. HIV抗体検査 ELISA法よりPA法に変更

10. 7 プラズマコレクターシステム整備

●1988年（昭和63年）

- 1.21 自動血液型判定機（グルバマチック2000システム整備）

5. 1 献血者自己申告制度（HIV）開始

- 9.28 大相撲大鵬親方より献血運搬車 トヨタ
コロナ（大鵬号）1台寄贈

●1989年（平成元年）

1. 8 移動採血車おとおね5号（5ベット）を更新（54年整備）

- 2.10 神戸義二氏より献血運搬車カローラ（神戸号）1台寄贈

- 3.15 成分採血装置CS3000整備

- 3.31 登録・パーソナルコンピュータ（NEC 5200）整備

- 12.27 HCV抗体検査（ELISA法）、HBc抗体（HI法）開始

●1990年（平成2年）

3. 6 成分採血装置オートフェレーシスC整備

- 5.21 オープン献血実施

- 6.25 バクスター社より器材運搬車 トヨタ ハ

イエース1台寄贈

10. 8 移動採血車（おとおね6号）成分採血併用型に改造し採血車で成分採血を開始

12. 1 コンピュータータルシステム（NEC）整備

- 12.20 オープン採血用成分採血機材運搬車（コースタービッグバン）整備

●1991年（平成3年）

- 3.11 成分採血装置NDP整備

4. 1 凝固因子製剤用原料血漿確保始まる（50万L）

- 9.16 4週6休制施行実施

- 9.30 開設以来延べ献血者数200万人達成

- 12.25 群馬県骨髓データセンター業務開始

●1992年（平成4年）

- 1.21 赤血球M・A・P（日赤）製造許可を受ける

- 1.31 HCV抗体検査ELISA法からPHA法に変更

3. 1 国内自給に向け凝固因子製剤の供給販売開始（クロスエイトM250、500、1000）

6. HCV陽性者通知開始（通知基準による）

12. 3 赤血球M・A・P（日赤）製造開始

- 12.19 移動採血車おとおね1号（4ベット）を更新（57年整備）

●1993年（平成5年）

2. 1 新登録者カード発行

4. 1 群馬県輸血懇話会設立

5. 1 成分採血装置ヘモネティクスMCS整備

10. 1 高崎出張所を設置（高崎熱血倶楽部）イーストタワービル1階に開設

- 10.15 移動採血車おとおね7号（4ベット）を廃車（採血車5台となる）

●1994年（平成6年）

- 2.27 群馬県献血フェスティバル開催（伊勢崎市民文化会館）

- 3.28 4週8休制度施行実施

- 5.18 血液X線放射線照射装置（MRB-1520A-TV）整備し依頼による照射血液供給を開始

7. 生化学自動分析装置 機種変更

- (ACA8000より日立7250へ)
- 9. 1 コンピュータ全国統一センターシステム (NEC) 整備
 - 成分採血装置ミニオートフェレーシスC整備
 - 11. 7 移動採血車おとね3号(4ベット)を更新(59年整備)

●1995年(平成7年)

- 6. 1 自動感染症検査機器PK7200を整備

●1996年(平成8年)

- 3.28 検診車の整備
- 4. 1 第4代所長に松山四郎就任
第3代所長藤井佐司名誉所長に就任
- 6.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車
スバル インプレッサ1台寄贈
- 9. 1 献血者全員の試験官方式による検体保管開始
- 9. 3 採血番号ラベルシート(IDカード)10桁に変更
- 9.26 開設以来延べ献血者数250万人達成
- 10 出庫可否判定における検査履歴照合開始
- 11.30 お年玉付郵便葉書寄付金より血液運搬車
三菱 レグナム1台寄贈

●1997年(平成9年)

- 1.30 移動採血車(お年玉付郵便葉書寄付金)おとね6号(4ベット)を更新(60年整備)
- 3.13 移動採血車おとね2号(4ベット)を更新(61年整備)
- 4. 1 医務課長設置により組織並びに処務規定の一部改正(2部1データセンター9課1出張所17係)改組
- 9. ヒトパルボウイルスB19抗原検査の評価試験開始
- 10. 1 職員定数100名となる
- 12.28 血液X線照射装置(MBR-1520A-TM)を追加整備(2機となる)

●1998年(平成10年)

- 2. 1 梅毒検査RPR法よりTPPA法に変更
- 3.19 オープン献血会場で血小板採血を開始

- 4. 1 週休2日制実施
職員定数105名となる
- 7. 1 放射線照射血液が承認され薬価により供給開始(全血, 赤血球M・A・P, 濃厚血小板)
- 9. 1 前橋出張所(前橋ハートランド)大同生命前橋ビル1階に開設
- 12.21 放射線照射血液が追加承認され供給開始(洗浄赤血球・白血球除去赤血球・解凍赤血球・合成血)

●1999年(平成11年)

- 1.26 沖電気工業より保冷库付血液運搬車寄贈
日産 AD マックスバン保冷库付
- 2. 1 原料用血漿について当日以外の服薬者よりPPPのみの採血始める
- 2.26 移動採血車おとね7号(4ベット)を整備(採血車6台となる)
- 3. 5 前橋中央ライオンズクラブより魚八景ジュニア1台寄贈
- 4. 1 採血基準の改正により献血年齢69歳まで引き上げとなる
- 5.12 統一システム全国献血者一元管理に移行となる
- 6. 2 群馬県赤十字有功会より東芝液晶データプロジェクター1台寄贈(創立20周年記念)
- 9. 1 核酸増幅検査(NAT)開始

●2000年(平成12年)

- 1. 1 HTLV-1抗体検査陽性者に通知開始
- 2. 1 核酸増幅検査 500本プールより50本プール検査に変更
- 2.29 県の助成を受け血液センター1階部分を全面改修(供給部門に血液製品用保存室、製剤部門に二次更衣室等新設)、一部増築
- 3.17 ヒトパルボウイルスB-19抗原検査正式導入となる
- 5.16 NAT済み血小板供給を開始
- 7.26 群馬県学生献血推進連合による献血キャラバン隊を編成し県内11市長に献血推進メッセージを届ける(28日まで)
- 8.28 血液センター増築及び改修工事開始
- 10. 3 検診車整備 日野 リエッセII

沿革

11.26 高崎出張所開設以来延べ献血者10万人達成

●2001年（平成13年）

- 2. 移動採血車おとおね9号（4ベット）整備（採血車7台となる）
- 3.30 県の補助を受け増築及び改修工事竣工（1,746.58㎡を増築し、総延べ床面積4,406.65㎡）となる
- 4. 1 第5代所長に大月邦夫就任
- 5.22 HCV抗体検査、リエントリー開始
- 7. 3 血液センター増改築竣工記念式典
- 8. 6 赤十字アルブミン25販売開始
- 12.28 開設以来延べ献血者数300万人達成

●2002年（平成14年）

- 2.15 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 日産 ウイングロード1台寄贈
- 4. 1 太田出張所「太田YOU愛」を東毛学習文化センター前に設立
HCV抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始により、HCV抗体検査陽性者希望者全員に通知を開始
- 4.10 太田出張所「太田YOU愛」東毛学習文化センター前に開設業務開始
- 7. 5 DONOR CARD集発刊
- 7.31 薬事法及び採血及び供血あっせん業取締法の一部を改正され名称も「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変更され公布される
移動採血車おとおね5号（5ベット）を廃車（採血車6台となる）
- 12.31 移動採血車おとおね1号（4ベット）を廃車（採血車5台となる）

●2003年（平成15年）

- 4. 1 HBc抗体陽性血液の核酸増幅検査の開始によりHBc抗体検査陽性者全員に通知を開始
- 6. 1 ホームページ開設
高崎出張所改修及び増設工事竣工(81.33㎡を増設し総延べ床面積283.37㎡)となる
- 6.13 献血者の献血歴の確認 遡及調査の実施

（梅毒・HBV・HCV及びHIV）

10. 1 高崎出張所（高崎熱血倶楽部）10周年記念式典

12.12 高崎出張所開設以来延べ献血者15万人達成



●2004年（平成16年）

- 1.30 2ヶ月間（60日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 3.31 供給冷凍室（貯留保管用）増築工事竣工（46.15㎡を増築し、総延べ床面積4,452.8㎡）となる
- 6.20 第二次血液事業統一システム導入
- 8.15 献血後情報の対応手順の変更（平16.7.30付厚生労働省「輸血用血液等遡及調査に関するガイドライン」に基づき）
- 8.28 核酸増幅検査50本プール検査より20本プール検査に変更
- 8.31 90日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 10. 1 献血者本人確認全国実施
- 12.28 120日間貯留保管済みFFPの供給開始

●2005年（平成17年）

- 3.31 150日間貯留保管済みFFPの供給開始
- 4. 1 第6代所長に土田嘉昭就任
群馬県献血メールクラブの開始
- 7.29 6ヶ月間（180日）貯留保管済み新鮮凍結血漿供給開始
- 11. 1 第7代所長に遠藤敬一就任

●2006年（平成18年）

- 3. 1 成分採血由来製剤の保存前白血球除去の実施
- 7.13 群馬県立県民健康科学大学のオープン献血会場を皇太子殿下がご視察
第42回献血運動推進全国大会開催（群馬県総合スポーツセンター）
サンデン株式会社より血液運搬車 日産エクストレイル1台寄贈
富士重工業株式会社群馬製作所より血液運搬車 スバル フォレスター1台寄贈
群馬県病院協会、（社）群馬県医師会、（社）群馬県歯科医師会、（社）群馬県薬剤師会、（社）群馬県看護協会より器材運搬車 いすゞ エルフ1台寄贈
- 8.28 日赤ポリグロビンN注5% 2.5g/50mLの販売開始
- 9.15 日赤ポリグロビンN注5% 0.5g/10mL、日赤ポリグロビンN注5% 5.0g/100mLの販売開始
- 9.23 保存前白血球除去された成分採血由来新鮮凍結血漿製剤の供給開始
- 10. 1 献血カードの導入
検査業務が埼玉県赤十字血液センターへ集約
- 10.26 血小板成分採血における保存前白血球除去及び初流血除去の実施



●2007年（平成19年）

- 1.16 全血採血由来赤血球製剤の保存前白血球除去及び初流血除去の実施

- 3. 3 国際ソロプチミスト前橋より血液運搬車 スバル インプレッサ1台寄贈
- 8. 1 保存前白血球除去された全血採血由来新鮮凍結血漿製剤の販売開始
- 11.14 有効期間「採血後4日間」に変更となった血小板製剤の供給開始

●2008年（平成20年）

- 2. 8 血清学的検査を凝集法から化学発光酵素免疫法（CLEIA法）へ変更（同年8月全国で導入）
- 7.21 輸血用血液製剤の新バーコード表示による製造開始
- 7.23 初流血除去を実施した成分採血由来新鮮凍結血漿の供給開始
- 8. 新NATシステムへ切り替え（HIV-1グループ0及びHIV-2の検出も可能）

●2009年（平成21年）

- 1.29 前橋出張所改装工事竣工
- 2.11 前橋出張所「前橋ハートランド」10周年記念イベント開催（於 ユナイテッド・シネマ前橋）
- 3.10 移動採血車おとおね3号（4ベット）を整備
- 3.15 糖尿病関連検査（グリコアルブミン検査）の開始
- 4. 1 第8代所長に小泉武宣就任
高崎出張所（高崎熱血倶楽部）の定休日が第4月曜日に変更
- 4.23 移動採血車おとおね2号（4ベット）を廃車（採血車5台となる）
- 11.23 第1回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）
- 12.28 血漿分画製剤の販売名の変更に伴い、日赤ポリグロビンN5%静注5g/100mLの販売開始。他の血漿分画製剤に関しても新販売名の製剤を順次販売開始

●2010年（平成22年）

- 1.27 1980年から1996年の英国滞在歴の献血制限が「1日以上」（1泊以上）から「通

- 算1ヶ月以上)(31日以上)に緩和
- 2. 5 血小板製剤及び成分採血由来血漿製剤の販売名の変更に伴い、(照射)濃厚血小板-LR「日赤」と(照射)濃厚血小板HLA-LR「日赤」の供給開始。成分採血由来血漿製剤については6ヶ月間(180日間)貯留保管後、順次供給開始
- 2.13 高崎城ライオンズクラブより医療用デジタル体重計1台寄贈
- 5.31 血液センター2階間仕切り改修工事竣工
- 11.23 第2回献血感謝デー開催(於 イオンモール高崎)
- 12.14 高崎出張所高崎熱血倶楽部採血業務を廃止
- 12.15 高崎出張所高崎駅献血ルームHarmony(JR高崎駅東口3階イーサイト内)業務開始
- 12.28 血球計数検査サービス(8項目)を200mL全血献血へ拡充開始



高崎駅献血ルームHarmony

●2011年(平成23年)

- 2.15 (財)日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車(4ベット)を整備(採血車6台となる)
- 3. 7 移動採血車おとおね7号(4ベット)を廃車(採血車5台となる)
- 4. 9 東日本大震災対策支援要員として職員を派遣(計5回)
- 7.27 赤十字アルブミン5%静注12.5g/250mLの販売開始
- 8.16 群馬県より[平成23年度献血・骨髄ドナー登録推進業務(緊急雇用創出事業)]委託

を受託(9.1実施)

- 11.23 第3回献血感謝デー開催(於 イオンモール高崎)

●2012年(平成24年)

- 4. 1 広域事業運営体制の開始(1部 1データセンター 6課3出張所 19係)改組
- 8. 6 献血血液の検査基準の変更
輸血後のB型肝炎対策として「HBc抗体(C.O.I.)1.0以上12.0未満かつHBs抗体価200mIU/mL未満」の献血者に対する献血制限の実施
- 10. 1 シャーガス病に係る安全対策開始
- 11.23 第4回献血感謝デー開催(於 イオンモール高崎)



●2013年(平成25年)

- 1.16 「献血の同意説明書」の導入
- 1.26 日赤ポリグロビンN10%静注5g/50mL、日赤ポリグロビンN10%静注10g/100mLの販売開始
- 2. 4 太田出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事開始
- 3. 8 災害救護機材配備(タブレット型PC端末5式)
- 3.25 災害救護資材配備(雨衣・防寒着)
- 3.27 災害救護資材配備(非常食)
- 3.31 血液センターの1階製造部門に係る部分の改修工事完了
- 5. 2 太田出張所太田献血ルーム業務開始
- 9. 3 成分採血由来の新鮮凍結血漿の容量を

450mLから480mLに変更。3つの製剤規格容量を整数倍へ

(120mL、240mL、480mL)

- 11.24 第5回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）



太田献血ルーム

●2014年（平成26年）

- 1.28 災害救護機材配備（ノート型PC端末2台、デジタルカメラ1式）
- 3.27 災害救護資材配備（非常食）
- 4. 1 第9代所長に林 泰秀就任
- 5.11 血液事業情報システム稼働（供給部門）
- 6.25 血液事業情報システム稼働（全部門）
- 8. 1 個別NAT検査開始
- 9.29 関東甲信越ブロックでの血小板製剤分割開始
- 10. 1 検査サービス通知書（ハガキ）新様式開始
- 11.24 第6回献血感謝デー開催（於 イオンモール高崎）

●2015年（平成27年）

- 2.23 前橋出張所改修工事に伴う採血業の休止
- 2.26 災害救護資材配備（発電機1台）
- 2.28 前橋出張所前橋献血ルーム業務開始
- 3.10 災害救護資材配備（スノーダンプ5台、スコップ10本、ストーブ3台）
- 3.25 災害救護資材配備（非常食）
- 3.31 血漿分画製剤の全製剤販売終了
- 7. 8 北関東高校献血打合せ会開催
- 11.22 第7回献血感謝デー開催（於 けやきウォーク前橋）



前橋献血ルーム

●2016年（平成28年）

- 2. 2（財）日本宝くじ協会助成事業「移動採血車の整備事業」による移動採血車（4ベット）を整備
- 2.19 災害救護資材配備（ADバン）
- 3.20 献血模擬体験「キッズ献血」を実施（於 イオンモール高崎）
- 3.30 移動採血車おとね9号を廃車

組織体制

群馬県赤十字血液センター



- 所在地 〒379-2154
群馬県前橋市天川大島町
2-31-13
- 開設年月日 昭和59年12月20日
- 敷地面積 3,835.73 ㎡
- 建物の構造 本館棟／鉄筋コンクリート造
地下1階 地上2階
(塔屋付)
別館棟／鉄骨造 地上3階
(塔屋付)
- 延床面積 4,452.8㎡

高崎駅献血ルームHarmony

受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00

休業日 年末年始
床面積 325.58㎡
ベット数 11ベット
(全ベット液晶テレビ付)
採血装置 成分・全血採血装置



〒370-0849 群馬県高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階 イーサイト内
TEL027-327-8139 FAX027-327-8143



前橋献血ルーム

受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00

休業日 年末年始
床面積 310.19㎡
ベット数 10ベット
(全ベット液晶テレビ付)
採血装置 成分・全血採血装置



〒371-0805 群馬県前橋市南町3-9-5 (大同生命ビル1F)
TEL027-220-5522 FAX027-220-5523



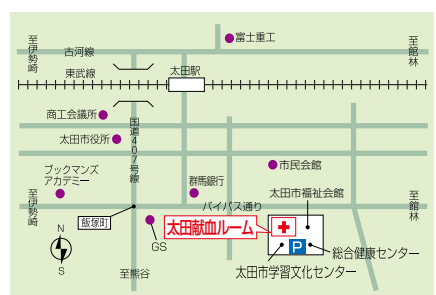
太田献血ルーム

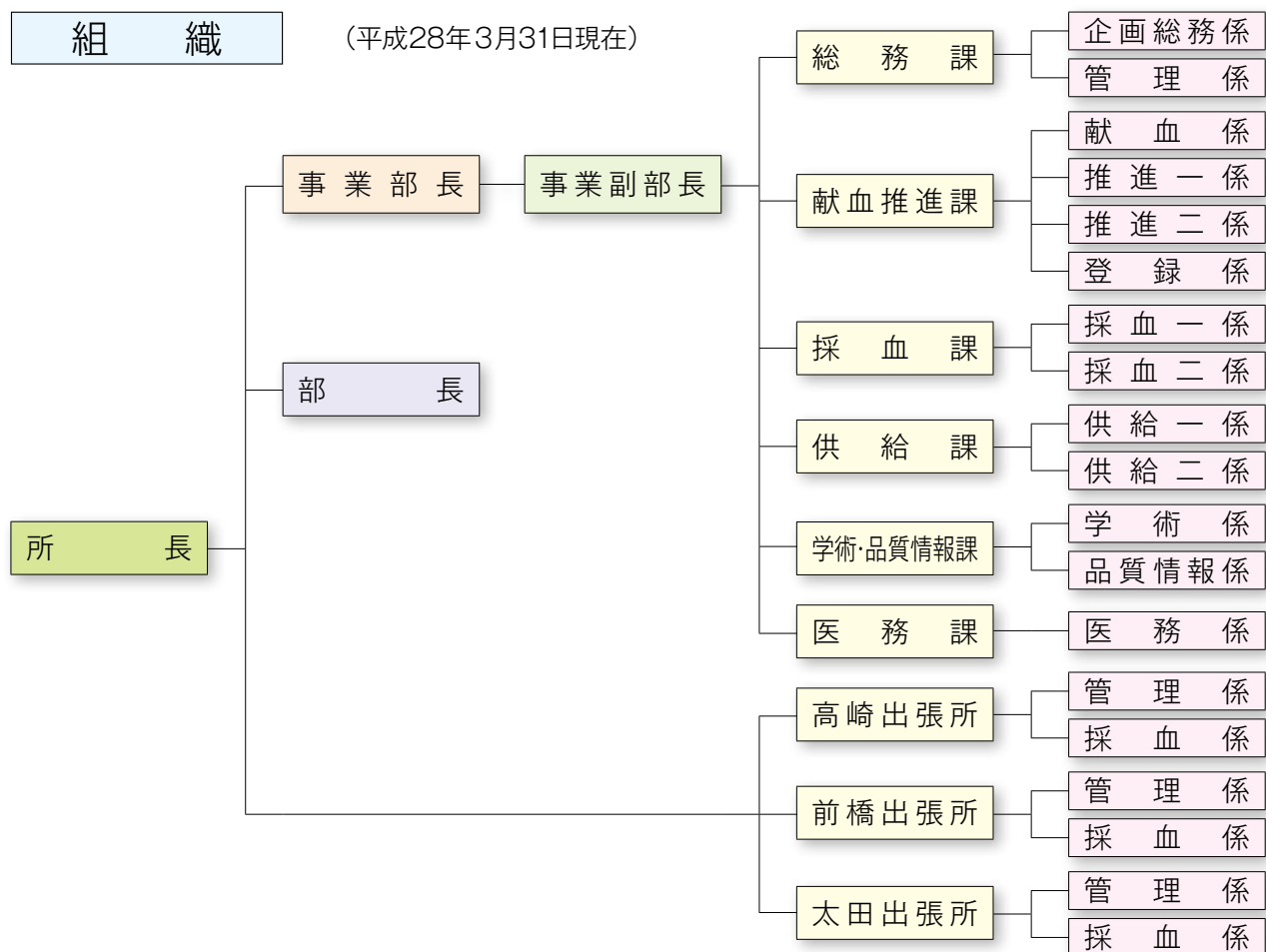
受付時間 全血献血／10:00～13:00
14:00～17:30
成分献血／10:00～12:30
14:00～17:00

休業日 年末年始
床面積 396㎡
ベット数 10ベット
(全ベット液晶テレビ付)
採血装置 成分・全血採血装置



〒373-0817 群馬県太田市飯塚町1549-2 (太田市学習文化センター前)
TEL0276-60-3300 FAX0276-49-3300

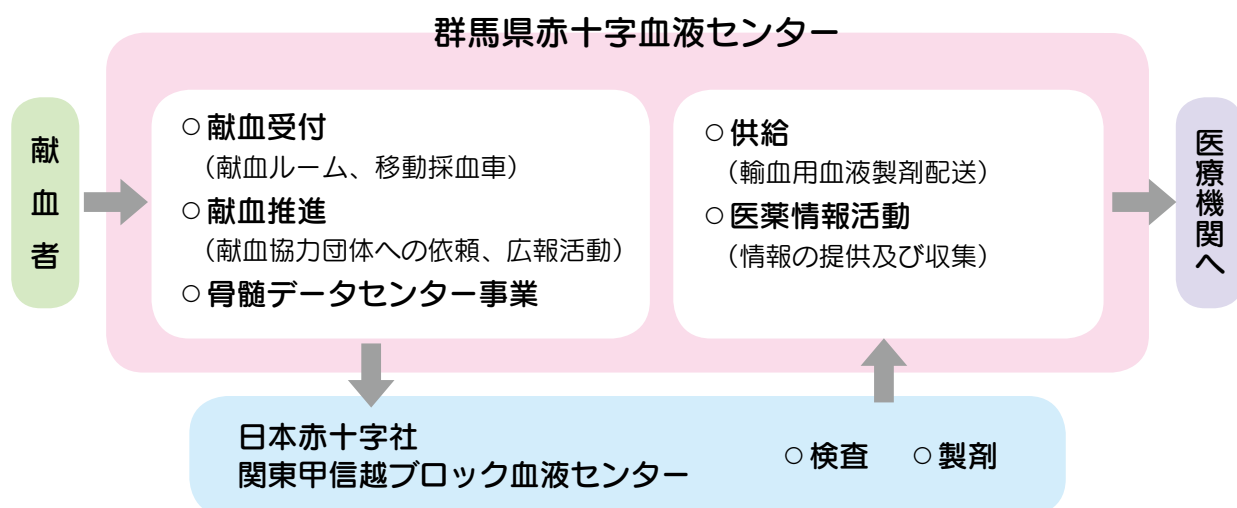




職 員 (平成28年3月31日現在)

医 師	薬 剤 師	検査技師	看 護 師	准 看 護 師	事務職員	合 計
1	3	2	29	2	55	92

群馬県赤十字血液センターの業務の流れ



献血の概況

平成27年度、群馬県では延べ80,969名の献血協力をいただき、県内の各医療機関への輸血用血液製剤の供給と、血漿分画製剤用血漿の確保に努めました。

平成26年6月から新たな血液事業統一システムを導入し、申込書の電子化や生体認証での本人確認が可能となり利便性と厳格化を図りました。今後も引き続き輸血用血液製剤の「更なる安全性の向上」及び「安定的な確保」を最重要課題として取り組んでまいります。

献血推進対策としては「新規献血会場の開拓」、「複数回献血の推進」、「献血協賛企業におけるサポーター制度推進」及び「将来の献血を担う若年層への啓発」に努めています。更に、県内のスポーツ団体との協力体制を構築し、キャンペーン活動やEメール、SNSを活用する等の対策を講じています。

献血者数については、県民の皆様のご理解とご協力をいただき、献血受付者数92,935名（前年度比99.2%）、献血者数80,969名（前年度比94.5%）の実績となりました。献血者数では前年度と比較して減少していますが、この主な要因は全血献血において、医療機関からの需要状況を考慮して400mL献血推進を行ったこと、また成分献血において血小板成分献血の採血後の分割が可能になったことが挙げられます。いずれの血液製剤も医療機関の需要に応じて届けることができました。

献血種類別の献血状況内訳は、全血献血者数 58,452名（前年度比93.3%）、成分献血者数 22,517名（前年度比97.8%）となっております。更に詳細の内訳をみてみますと、全血献血者数のうち400mL献血者数は、54,280名（前年度比107.5%）、200mL献血者数は、4,172名（前年度比34.4%）となりました。全血献血中の400mL献血構成比は92.9%となっており、医療機関からの400mL由来製剤の需要95%には及びませんでした。しかしながら、200mL献血を1単位として換算すると112,732単位（前年比99.7%）の確保をすることができたため、医療機関からの需要に応えることができました。成分献血者数のうち血小板成分献血者数は、14,062名（前年度比84.2%）、血漿成分献血者数は、8,455名（前年度比133.9%）でした。

1 献血ルーム

■高崎出張所：愛称「高崎駅献血ルーム Harmony」

「高崎駅献血ルームHarmony」は、交通やショッピングに便利なJR高崎駅東口イーサイト内に平成22年12月15日に開設しました。駅構内という好立地にあり、内装は「音楽のある街高崎」をイメージしたものとなっております。また、多くのボランティア団体に協力をいただいております、日々多くの献血者の方で賑わっております。

364日開設：受付者数17,745名

献血者数15,832名（1日平均献血者数43.5名、施設別構成比19.5%）

献血種類別では全血献血者数が8,071名（構成比51.0%）、内400mL献血者7,921名（400mL献血率98.1%）成分献血者数が7,763名（構成比49.0%）

■前橋出張所：愛称「前橋献血ルーム」

「前橋献血ルーム」は、県内2番目の献血ルームとして、JR前橋駅南口の大同生命ビル1階に、平成10年9月1日に開設いたしました。また平成27年2月28日にロビーを陽だまりのような空間をイメージにリニューアルいたしました。皆様のご支援ご協力と高等学校インターアクトクラブをはじめ多くのボランティアの方々に支えられております。

364日開設：受付者数 14,380名

献血者数 12,968名（1日平均献血者数は35.6名、施設別構成比16.0%）

献血種類別では全血献血者が5,983名（構成比46.1%）内400mL献血者5,855名（400mL献血率97.9%）成分献血者が6,985名（構成比53.9%）

■太田出張所：愛称「太田献血ルーム」

「太田献血ルーム」は太田市飯塚町の東毛学習文化センター（現太田市学習文化センター）前に、全国的にも珍

しい単独平屋建ての県内では1番の広さを誇る献血ルームとして、平成14年4月10日に開設いたしました。平成25年5月2日には、広々としたロビーのカジュアルなオープンスペースのカフェスタイルにリニューアルオープンしました。また、環境に配慮した街づくりを目指す太田市に習い、ソーラーシステムを導入したエコな献血ルームです。

364日開設：受付者数 16,153名

献血者数 14,652名(1日平均献血者数40.3名、施設別構成比18.1%)

献血種類別では全血献血者が6,881名(構成比47.0%)、内400mL献血者6,770名(400mL献血率98.4%) 成分献血者が7,771名(構成比53.0%)

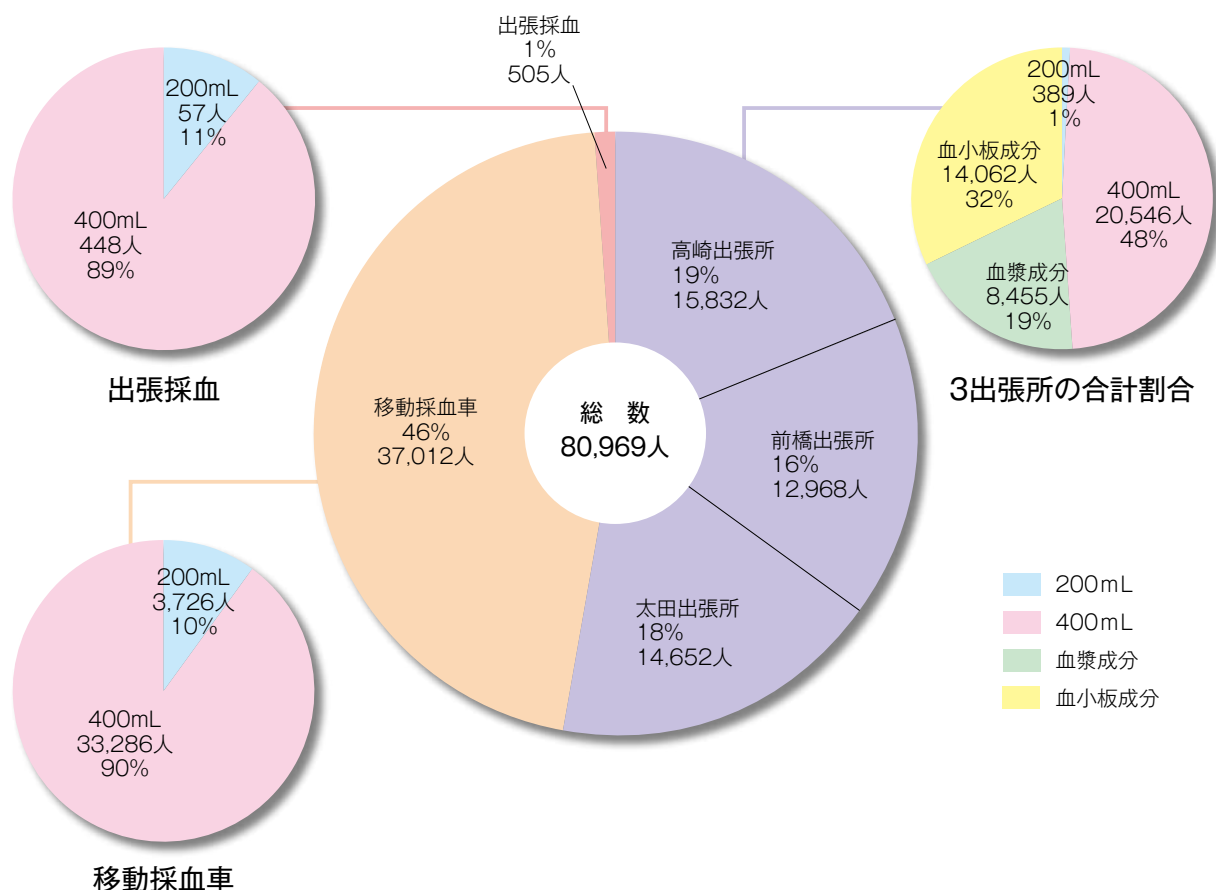
2 移動採血車

全血献血者の受入れを主として、4台の移動採血バスで運用をしています。延べ963台が県内の各献血会場で献血者の受入れを行いました。受付者数は44,026名、献血者数は37,012名(1台平均38.4名)でした。前年度献血者数と比較すると2,696名の減少でした。なお、全血献血に占める400mL献血構成比は89.9%で、前年度より9.7%の増加でした。

3 出張献血

移動採血バスによる献血者受入れが困難な場所において会議室等を献血会場にして実施する出張献血は、9回の実施を行いました。受付者数は631名、献血者数は505名でした。

平成27年度 施設別の献血状況



献血推進の概況

広報・キャンペーン活動

1. スポーツ団体とのコラボ事業

(1) ザスバクサツ群馬

ア 献血推進ポスター作成

イ 献血応援スペシャルマッチ

期日 平成27年4月11日（土）

会場 正田醤油スタジアム群馬

内容 献血（献血協力者へコラボグッズを処遇）、献血PR（試合前所長挨拶・横断幕による献血PR・競技場電光掲示板PR・チアリーディングショーなど）

協力 群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団・日本赤十字社群馬県支部



(2) パナソニックワイルドナイツ

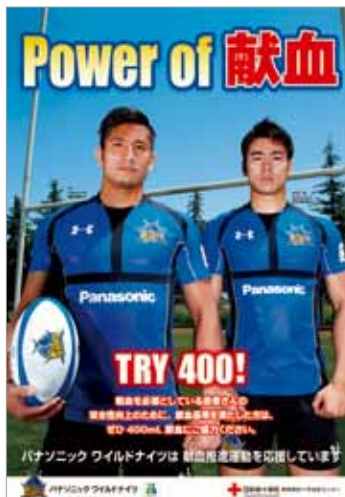
ア 献血推進ポスター作成

イ パナソニックワイルドナイツ試合会場献血

期日 平成27年12月26日（土）

会場 太田市総合運動公園陸上競技場前

内容 献血協力者へオリジナルグッズを処遇、場内アナウンスによる献血の啓発



2. 第6回夏休み親子献血教室

期日 平成27年8月4日（火）・8月5日（水）

会場 群馬県赤十字血液センター前橋出張所・太田出張所・関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所

内容 献血から輸血用製剤が出来るまでの基礎知識の学習、献血ルームの見学（献血模擬体験・緊急車両の見学）、埼玉製造所の見学（製造部門、検査部門）

後援 群馬県教育委員会・株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社

協力 群馬県・前橋市・太田市・日本赤十字社群馬県支部



3. 第7回献血感謝デー

期日 平成27年11月22日（日）
 会場 けやきウォーク前橋
 内容 献血功労者表彰式、献血実施、健康測定（血管年齢・脳年齢・骨の健康チェック）、救急法講習、ドクターヘリパネル展示、献血クイズ、骨髓バンクドナー登録会、劇団「こぐま座」による献血推進アトラクション、キャラクター写真撮影会など
 後援 株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社
 協力 群馬県・日本赤十字社群馬県支部・前橋赤十字病院・群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団



4. 全国学生クリスマス献血キャンペーン

期日 平成27年12月6日（日） 会場 けやきウォーク前橋
 期日 平成27年12月20日（日） 会場 高崎駅献血ルーム
 期日 平成27年12月23日（水） 会場 イオンモール高崎
 内容 学生ボランティアによる献血の呼びかけ及び献血協力者へオリジナルグッズを処遇
 主催 群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団



5. はたちの献血キャンペーン

期間 平成28年1月1日（金）～平成28年2月29日（月）

(1) 「はたちの献血」イベント

期日 平成28年1月17日（日）
 会場 スマーク伊勢崎
 内容 献血実施、パナソニックワイルドナイツ選手による血液センター1日所長及び広報（百武優雅選手、布巻峻介選手）、劇団「こぐま座」による献血推進アトラクション、キャラクター写真撮影会、献血クイズ、学生ボランティアによる献血広報・献血啓発資材（使い捨てカイロ等）の配布
 主催 群馬県
 協力 パナソニックワイルドナイツ・日本赤十字社群馬県支部・群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団・群馬県立太田フレックス高等学校・群馬県立西邑楽高等学校JRC部・共愛学園インターアクトクラブ



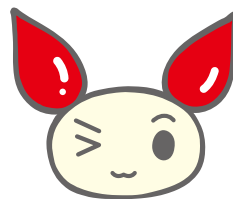
6. キッズ献血

期日 平成28年3月20日（日）
 会場 イオンモール高崎
 内容 献血模擬体験
 参加者に記念品を進呈・キッズ献血カードの発行（専門店の特典あり）
 後援 群馬県・群馬県教育委員会・株式会社エフエム群馬・群馬テレビ株式会社・上毛新聞社
 協力 日本赤十字社群馬県支部・群馬県学生献血推進連合・群馬県青年赤十字奉仕団・高崎健康福祉大学高崎高等学校JRC部
 特別協賛 イオンモール高崎



献血メールクラブ（複数回献血クラブ）

「献血メールクラブ」では、登録をいただいた会員の方々へ適宜メールを配信し、献血の要請などを行っております。血液の不足時や、医療機関から緊急要請があった場合にも、即時に情報発信ができるため、救命のネットワークとしてその重要性は、年々高まっております。その他、県内の献血会場、キャンペーンやイベント情報などのお知らせを行うなど、献血者と血液センターを繋ぐツールとして活用しています。



平成27年度は、会員の方全員へのお知らせメールは7回の配信と、依頼・要請メールは延べ49,905名の方への配信をし4,342名（応諾率8.7%）の方にご協力をいただいております。

「献血メールクラブ」会員の特典として、献血後の検査成績が閲覧できるサービスなどを実施しております。今後は継続的に会員数増加に努めるとともに、サービス内容を充実させ、会員にとって利便性の高い情報ツールにして参ります。

献血メールクラブ会員数 14,432人（平成28年3月31日現在）

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーター・ロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。

※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。



献血サポーター

骨髄ドナー登録事業

日本赤十字社と骨髄ドナー登録事業（造血幹細胞事業）の関わりは、平成3年度に国からの依頼を受け、骨髄データバンク登録事業者として中央骨髄データセンター及び各地域骨髄データセンターを設置し、骨髄バンクドナー登録希望者を受け入れることから始まりました。

新たな動きとして日本赤十字社は、平成25年10月1日に国から「造血幹細胞提供支援機関」の指定を受けました。（関連法「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」平成26年1月1日施行）

支援機関の主な業務として、献血現場における骨髄ドナー登録推進活動が挙げられます。群馬県赤十字血液センターは、群馬県及び群馬県骨髄バンク推進連絡協議会と協同して、県内の骨髄バンクドナー登録を推進しております。

平成27年度、群馬県内の骨髄ドナー登録者数は354名でした。その内、献血バスと併行した骨髄ドナー登録会（献血併行型登録会）では、259名の登録をいただいております。

平成27年度 骨髄ドナー登録受付状況

単位：人

受付場所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高崎駅献血ルーム Harmony	5	2	2	1	2	2	2	0	3	7	2	4	32
前橋献血ルーム	2	8	1	1	4	3	1	3	5	5	6	2	41
太田献血ルーム	0	3	3	1	1	0	1	1	1	4	4	2	21
献血併行型登録会	5	0	1	14	2	16	25	21	49	30	53	43	259
渋川保健福祉事務所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合 計	12	13	7	17	9	21	29	25	58	46	66	51	354

※渋川保健福祉事務所での登録受付は平成28年3月31日をもって終了いたしました。

平成27年度 骨髄ドナー登録取消状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
取消者数	17	10	12	19	22	7	13	21	19	17	22	22	201

取消の主な要因は、「年齢超過」や「調整結果」などによるものです。

骨髄ドナー登録状況

群馬県内 〔全国〕

総登録者数：6,550人 〔663,775人〕

実登録者数：4,597人 〔205,423人〕

登録取消者数：1,953人 〔458,352人〕

平成28年3月31日現在

群馬県内の骨髄ドナー登録受付窓口（固定施設）

○前橋献血ルーム	}	〔受付時間〕	10：00～12：00
○高崎駅献血ルーム Harmony			14：00～17：00
○太田献血ルーム		〔休業日〕	年末年始

検査・製剤の概況

群馬県で献血していただいた血液は、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所へ運ばれ、血液型や感染症などの検査を行い輸血用血液製剤として製造されます。

その後、製造された輸血用血液製剤は群馬県赤十字血液センターに届けられ供給課で保管しています。

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の業務



- 開設年月日 平成24年2月14日
- 所在地 〒355-0071
埼玉県東松山市大字新郷493-1
- 敷地面積 9,787.08 m²
- 建物の構造 鉄骨造地上3階建
- 延床面積 11,947.31 m²

関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所は、関東信越6県（群馬県、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県、茨城県）で献血していただいた血液の検査及び製造業務を行う施設です。

●検査

輸血による副作用や感染症予防のために血液型検査、感染症関連検査、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。

検査項目

- ・血液型検査：
A B O血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査
- ・感染症関連検査：
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査(HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体)、C型肝炎ウイルス検査(HCV抗体)、エイズウイルス検査(HIV-1、2抗体)、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19検査
- ・生化学検査：
ALT、γ-GTP、総蛋白(TP)、アルブミン(ALB)、アルブミン対グロブリン比(A / G比)、コレステロール(CHOL)、グリコアルブミン(GA)
- ・血球計数検査：
赤血球数(RBC)、ヘモグロビン濃度(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)、平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)、白血球数(WBC)、血小板数(PLT)
- ・核酸増幅検査：
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

このほか、必要に応じてHLA関連検査(HLA抗原検査・HLA抗体検査・血小板抗体検査)、まれな血液型検査、サイトメガロウイルス抗体検査等を行って、患者さんに適合した輸血用血液製剤を供給しています。



検査作業



検査機器

●製 剤

現在の輸血医療は必要な成分を輸血するために成分ごとに輸血用血液製剤として調製されます。また、輸血による副作用を予防するために保存前に白血球の大部分を取り除き、血漿製剤以外には、放射線を照射しています。

このように安全性の高い血液製剤の製造を行っています。



血液成分の分離作業



放射線照射作業



フィルトレーション作業（白血球除去）

●品質管理

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用原料血漿の安全性、品質及び均質性の確保を図るために、受入試験にて原料・資材・試薬の品質確認を実施しています。また、製品抜取試験（製品試験、無菌試験、凝固試験）、白血球数試験を実施し、各製剤の品質の確認を実施しています。

さらに、「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理規則（GMP省令）」に規定されている要件を遵守して、各部門の作業が適正に行われているかを管理しています。



クリーンベンチ（無菌試験用）



無菌試験（培地）

供給の概況

群馬県赤十字血液センターでは12台の献血運搬車を配備しています。24時間365日体制で、県内すべての医療機関からの注文に対し、必要な輸血用血液製剤を供給しています。また、要請に応じて緊急輸送も行っています。献血由来の血漿分画製剤は、平成27年3月末日をもって販売中止となりました。

平成27年度の総供給本数は86,488本で、前年度に対しては438本減少（前年度比99.5%）しました。供給単位数では316,255単位で、前年度に対しては7,952単位増加（前年度比102.6%）しました。

1. 血小板製剤

供給単位数は160,615単位で、前年度に対して4,486単位増加（前年度比102.9%）でした。血小板減少症を伴う疾患や大量出血時などに使用され、今日の輸血医療においては欠かすことのできない血液製剤であり、総供給数に占める血小板製剤の構成比は50.8%と最も高くなっています。全国的な需要傾向（全国平均前年度比99.5%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

2. 血漿製剤

供給単位数※は46,883単位で、前年度に対して1,385単位増加（前年度比103.0%）でした。

全国的な需要傾向（全国平均前年度比99.5%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

※200mL献血由来製剤を1.5単位、400mL献血由来製剤を3単位、成分献血由来製剤を5単位として換算

3. 赤血球製剤

供給単位数※は108,757単位で、前年度に対して2,081単位増加（前年度比102.0%）でした。全国的な需要傾向（全国平均前年度比99.7%）に対して、当県においては前年度より若干増加しました。

※200mL献血由来製剤を1単位、400mL献血由来製剤を2単位として換算

4. 全血製剤

今年度は供給がありませんでした。

医薬情報活動の概況

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を「医療関係者に提供し、使用された際の情報を収集し、適切に分析・評価された結果を医療関係者へフィードバックする」これら一連の役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術・品質情報課 学術係がその業務を行っています。なかでも、輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置づけられています。また、血液製剤の取り扱いに関する問い合わせの対応や医療関係者への勉強会を実施することで、有限で貴重な血液製剤を適正に使用していただくよう活動しています。

適正かつ安全な輸血療法を目指すため、平成18年には県内医療機関、行政、血液センターが三位一体となった「群馬県合同輸血療法委員会」が設置され、事務局として年1回の合同会議や講演会などを開催しています。平成27年度は血液製剤の廃棄削減をテーマに活動し、「第10回群馬県合同輸血療法委員会」では県内医療機関を対象としたアンケート調査の結果発表や各施設の血液製剤の廃棄に係る事例について講演を行い、廃棄削減に向けた情報共有をしました。また、安全な輸血療法を推進するため、「学術講演会」では公益財団法人 日本医療機能評価機構の坂口美佐先生をお招きして輸血に関するインシデント事例について講演会を行いました。



医療関係者への情報提供



医療機関での勉強会

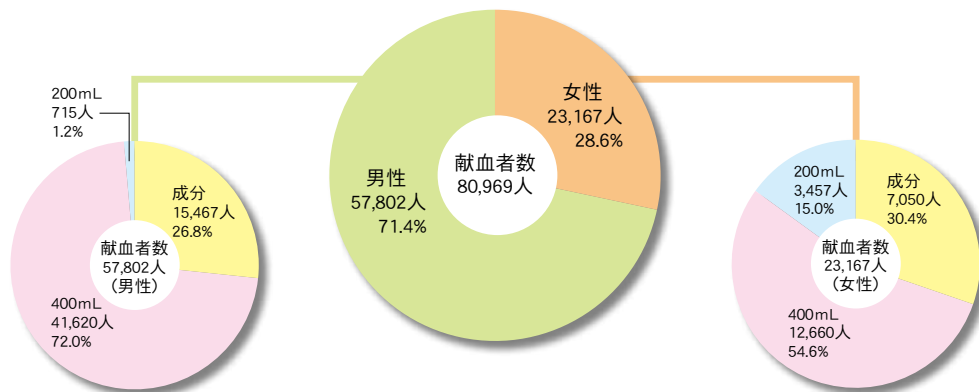


群馬県合同輸血療法委員会

統計資料

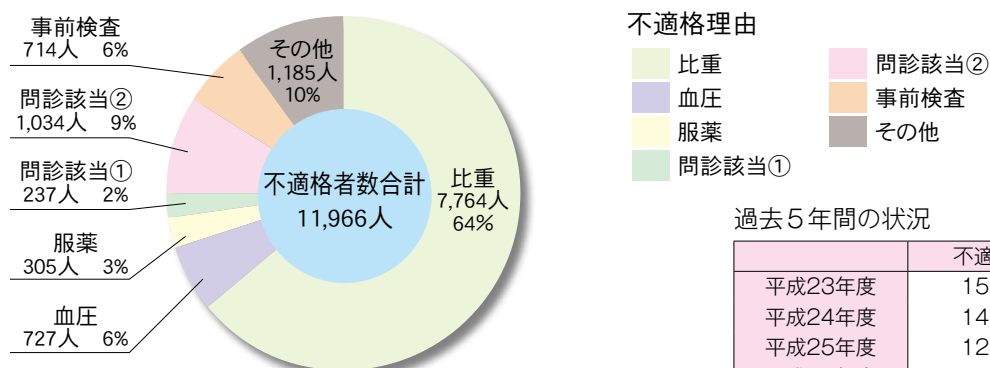
平成27年度 献血状況

項目		献血ルーム		採血車		出張		計		
		受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	受付人数	採血人数	男 女
平成27年度計			43,452		37,012		505		80,969	57,802 23,167
		48,278	22,517	44,026	0	631	0	92,935	22,517	15,467 7,050
			20,546		33,286		448		54,280	41,620 12,660
			389		3,726		57		4,172	715 3,457



献血出来なかった人の状況

平成27年度 献血不適格者数	不適者 11,966人 12.9%	適格者 80,969人 87.1%	受付者数 92,935人
-------------------	-------------------	-------------------	-----------------



- 比 重 … 血液比重又は血色素量が採血基準を満たさない場合
- 血 圧 … 血圧が採血基準を満たさない場合
- 服 薬 … 注射・服薬の状態が問診の基準を満たさない場合
- 問診該当① … B型C型肝炎ウイルス保有者、輸血歴・臓器移植歴のある人、C型肝炎の既往、慢性B型肝炎、原因不明の肝炎の既往、乾癬の治療にチガソン服用、梅毒の既往、マラリアの既往、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の関連事項、HIVの関連事項、シャーガス病・アフリカトリパノソーマ症、リーシュマニア症の既往、バベシア症、vCJDに関連した欧州滞在歴
- 問診該当② … 問診該当①以外に問診上不適格な理由がある場合（体調不良、海外帰国後4週間以内等）
- 事 前 検 査 … 血算・心電図・検尿（乳糜血・ALT）等で不適格の場合
- そ の 他 … 献血者の意思変更、時間無し、血管が細いなどの理由で不適格の場合

献血不適格者の状況

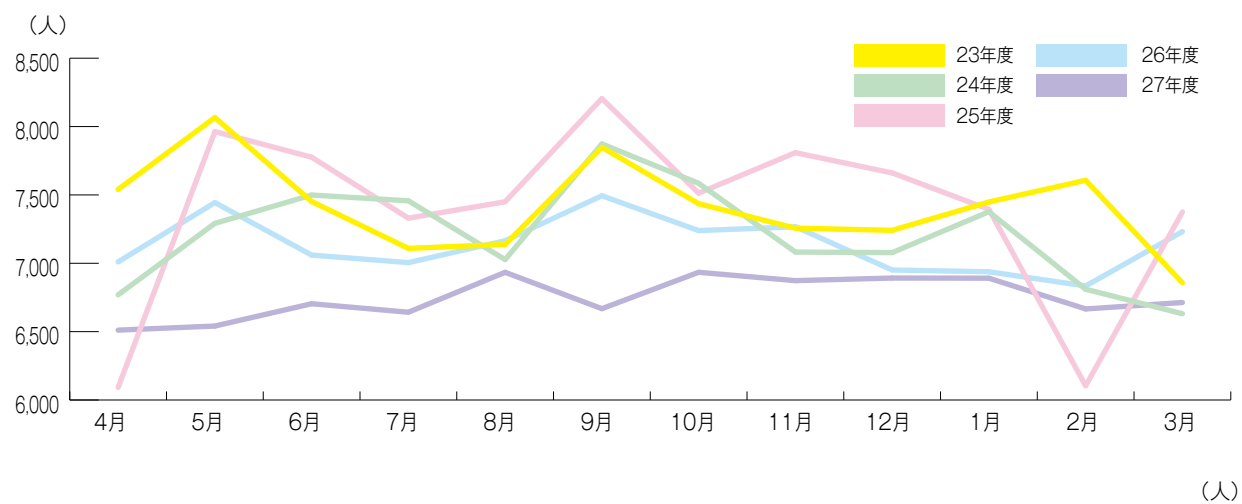
不適格理由	比 重	血 圧	服 薬	問診該当①	問診該当②	事前検査	その他	合 計
男	1,352	495	225	149	577	612	470	3,880
女	6,412	232	80	88	457	102	715	8,086
合 計	7,764	727	305	237	1,034	714	1,185	11,966

平成27年度 市町村別献血者数

	人 口 (A)	受付者数	全血献血者数			成分献血者数			総献血者数 (B)	献血率 (B)/(A)
			200mL	400mL	計	血小板成分	血漿成分	計		
合 計	1,970,530	92,935	4,172	54,280	58,452	14,062	8,455	22,517	80,969	4.1%
前橋ルーム		14,380	128	5,855	5,983	4,329	2,656	6,985	12,968	
高崎ルーム		17,745	150	7,921	8,071	4,594	3,167	7,761	15,832	
太田ルーム		16,153	111	6,770	6,881	5,139	2,632	7,771	14,652	
管内 合計		44,657	3,783	33,734	37,517	0	0	0	37,517	
前橋市	336,014	8,535	579	6,492	7,071	0	0	0	7,071	2.1%
前橋市保健所管内 計	336,014	8,535	579	6,492	7,071	0	0	0	7,071	2.1%
高崎市	370,782	7,430	539	5,749	6,288	0	0	0	6,288	1.7%
高崎市保健所管内 計	370,782	7,430	539	5,749	6,288	0	0	0	6,288	1.7%
渋川市	78,144	1,474	228	1,013	1,241	0	0	0	1,241	1.6%
榛東村	14,339	268	8	224	232	0	0	0	232	1.6%
吉岡町	21,203	693	24	575	599	0	0	0	599	2.8%
保健福祉事務所管内 計	113,686	2,435	260	1,812	2,072	0	0	0	2,072	1.8%
伊勢崎市	209,011	7,426	296	5,843	6,139	0	0	0	6,139	2.9%
玉村町	36,615	517	40	374	414	0	0	0	414	1.1%
保健福祉事務所管内 計	245,626	7,943	336	6,217	6,553	0	0	0	6,553	2.7%
安中市	58,213	838	82	644	726	0	0	0	726	1.2%
保健福祉事務所管内 計	58,213	838	82	644	726	0	0	0	726	1.2%
藤岡市	65,557	1,370	152	1,008	1,160	0	0	0	1,160	1.8%
上野村	1,224	29	1	27	28	0	0	0	28	2.3%
神流町	1,930	68	8	52	60	0	0	0	60	3.1%
保健福祉事務所管内 計	68,711	1,467	161	1,087	1,248	0	0	0	1,248	1.8%
富岡市	49,539	1,082	99	836	935	0	0	0	935	1.9%
下仁田町	7,542	100	15	71	86	0	0	0	86	1.1%
南牧村	1,950	21	1	19	20	0	0	0	20	1.0%
甘楽町	13,182	68	9	55	64	0	0	0	64	0.5%
保健福祉事務所管内 計	72,213	1,271	124	981	1,105	0	0	0	1,105	1.5%
中之条町	16,706	270	31	193	224	0	0	0	224	1.3%
長野原町	5,407	165	21	120	141	0	0	0	141	2.6%
嬬恋村	9,518	142	19	111	130	0	0	0	130	1.4%
草津町	6,512	91	13	66	79	0	0	0	79	1.2%
高山村	3,650	40	0	36	36	0	0	0	36	1.0%
東吾妻町	13,984	518	58	407	465	0	0	0	465	3.3%
保健福祉事務所管内 計	55,777	1,226	142	933	1,075	0	0	0	1,075	1.9%
沼田市	48,459	1,219	222	820	1,042	0	0	0	1,042	2.2%
片品村	4,321	73	7	57	64	0	0	0	64	1.5%
川場村	3,645	132	16	98	114	0	0	0	114	3.1%
昭和村	7,205	92	9	73	82	0	0	0	82	1.1%
みなかみ町	19,189	401	47	302	349	0	0	0	349	1.8%
保健福祉事務所管内 計	82,819	1,917	301	1,350	1,651	0	0	0	1,651	2.0%
太田市	220,200	4,988	469	3,734	4,203	0	0	0	4,203	1.9%
保健福祉事務所管内 計	220,200	4,988	469	3,734	4,203	0	0	0	4,203	1.9%
桐生市	114,130	2,710	401	1,936	2,337	0	0	0	2,337	2.0%
みどり市	50,933	780	80	524	604	0	0	0	604	1.2%
保健福祉事務所管内 計	165,063	3,490	481	2,460	2,941	0	0	0	2,941	1.8%
館林市	76,418	1,293	158	873	1,031	0	0	0	1,031	1.3%
板倉町	14,958	268	37	182	219	0	0	0	219	1.5%
明和町	11,098	302	31	219	250	0	0	0	250	2.3%
千代田町	11,296	225	11	172	183	0	0	0	183	1.6%
大泉町	41,275	701	51	570	621	0	0	0	621	1.5%
邑楽町	26,381	328	21	259	280	0	0	0	280	1.1%
保健福祉事務所管内 計	181,426	3,117	309	2,275	2,584	0	0	0	2,584	1.4%

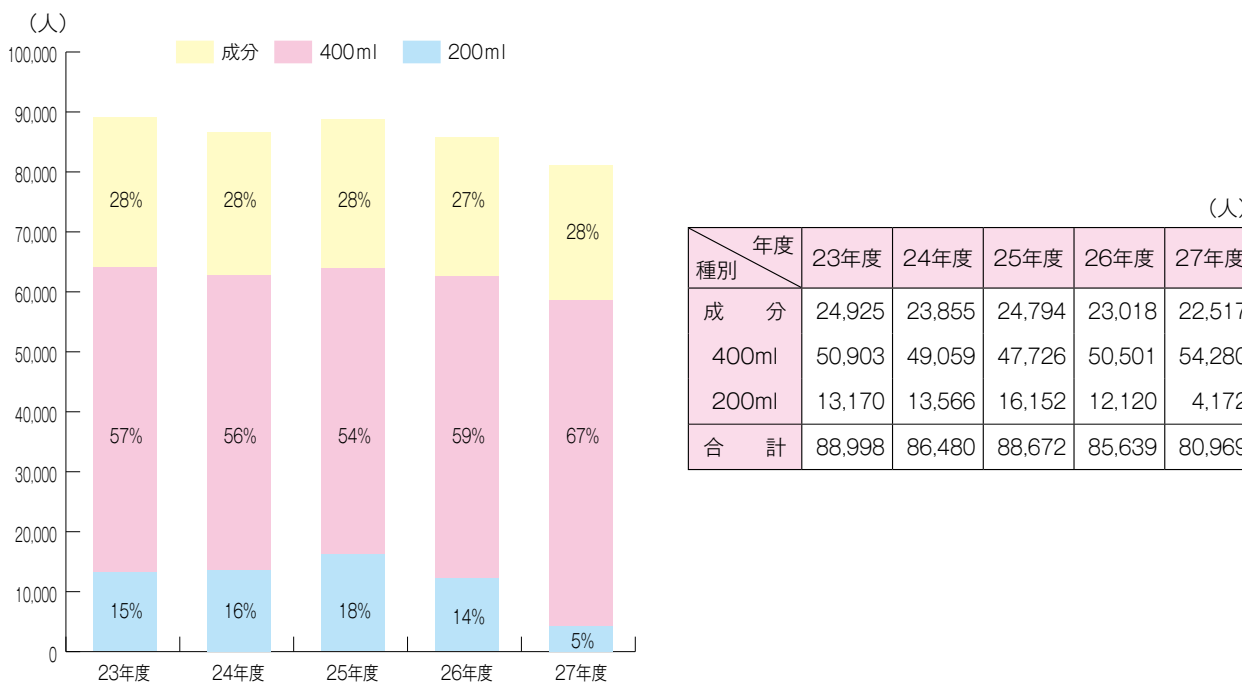
人口データ：群馬県企画部統計課作成「移動人口調査」平成28年3月1日現在

過去5年間の月別献血状況

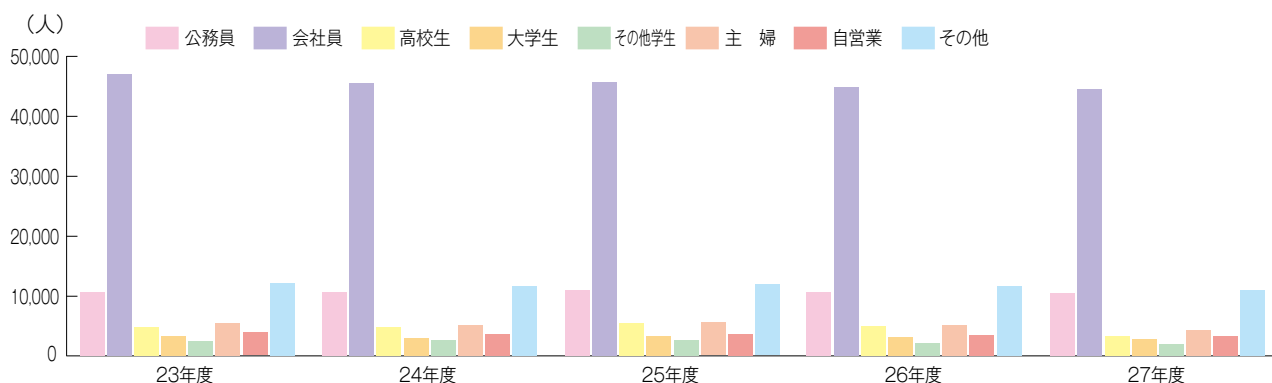


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度別 月平均
23年度	7,540	8,066	7,452	7,109	7,138	7,848	7,436	7,257	7,241	7,448	7,607	6,857	88,998	7,417
24年度	6,769	7,292	7,499	7,457	7,027	7,873	7,585	7,082	7,078	7,377	6,810	6,631	86,480	7,207
25年度	6,092	7,963	7,776	7,330	7,450	8,205	7,513	7,809	7,661	7,394	6,104	7,375	88,672	7,389
26年度	7,010	7,444	7,060	7,005	7,165	7,494	7,239	7,267	6,951	6,938	6,834	7,232	85,639	7,137
27年度	6,511	6,541	6,704	6,642	6,934	6,668	6,934	6,873	6,892	6,891	6,666	6,713	80,969	6,747
月別平均	6,784	7,461	7,298	7,109	7,143	7,618	7,341	7,258	7,165	7,210	6,804	6,962		

過去5年間の採血別献血者状況

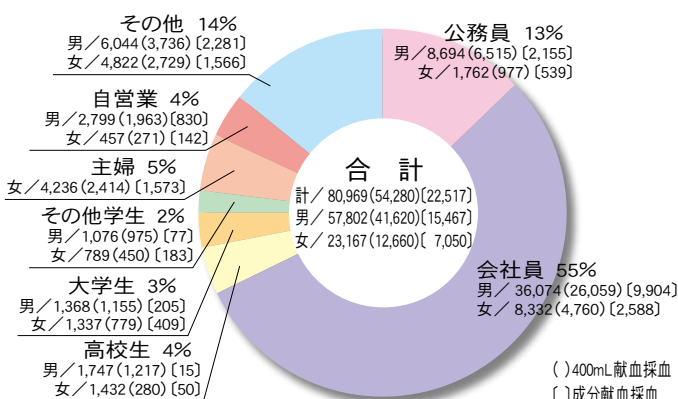


過去5年間の職業別献血者状況

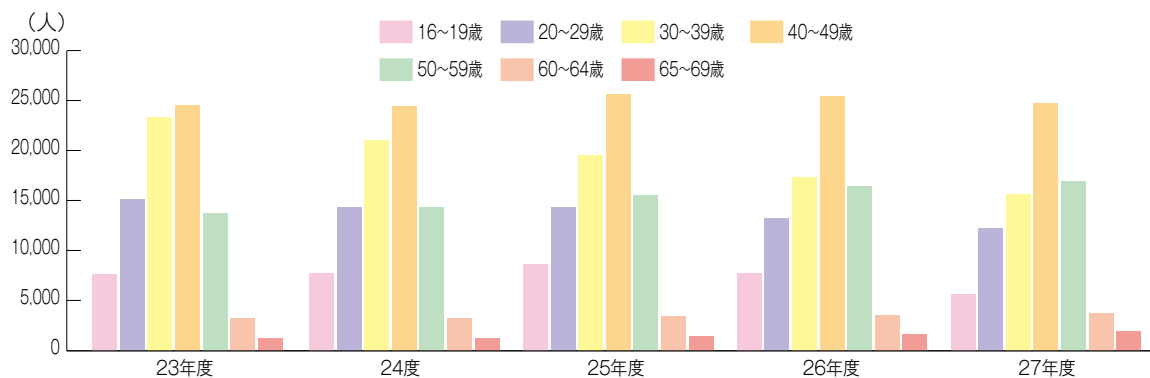


■平成27年度職業別献血者数

職業別	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
公務員	10,513	10,530	10,852	10,629	10,456
会社員	46,929	45,413	45,625	44,786	44,406
高校生	4,719	4,717	5,393	4,898	3,179
大学生	3,197	2,962	3,305	3,156	2,705
その他学生	2,399	2,531	2,606	2,145	1,865
主婦	5,366	5,070	5,496	5,019	4,236
自営業	3,819	3,626	3,562	3,491	3,256
その他	12,056	11,631	11,833	11,515	10,866
合計	88,998	86,480	88,672	85,639	80,969

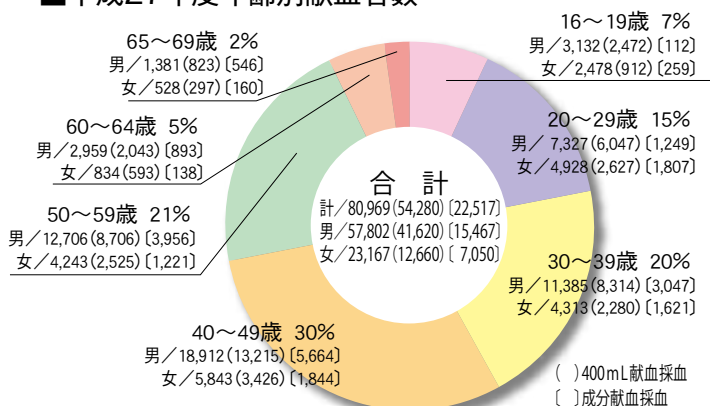


過去5年間の年齢別献血者状況



■平成27年度年齢別献血者数

年齢別	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
16~19歳	7,657	7,772	8,645	7,800	5,610
20~29歳	15,179	14,355	14,368	13,277	12,255
30~39歳	23,360	21,020	19,565	17,322	15,698
40~49歳	24,579	24,484	25,617	25,464	24,755
50~59歳	13,724	14,340	15,588	16,489	16,949
60~64歳	3,282	3,222	3,436	3,598	3,793
65~69歳*	1,217	1,287	1,453	1,689	1,909
合計	88,998	86,480	88,672	85,639	80,969



※平成11年4月1日より60~64歳のあいだに献血経験のある方に限り65~69歳の献血が可能となった。

血液型別供給本数(管内)

(単位：本)

	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
全血製剤	人全血液-LR「日赤」	WB-LR-1	0	0	0	0	0
		WB-LR-2	0	0	0	0	0
	照射人全血液-LR「日赤」	Ir-WB-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-WB-LR-2	0	0	0	0	0
	合 計		0	0	0	0	0

(単位：本)

	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
赤血球製剤	赤血球液-LR「日赤」	RBC-LR-1	327	316	250	183	1,076
		RBC-LR-2	2,194	2,115	1,133	547	5,989
	照射赤血球液-LR「日赤」	Ir-RBC-LR-1	1,861	1,597	1,212	562	5,232
		Ir-RBC-LR-2	16,620	13,817	10,278	4,493	45,208
	洗浄赤血球液-LR「日赤」	WRC-LR-1	0	0	0	0	0
		WRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射洗浄赤血球液-LR「日赤」	Ir-WRC-LR-1	12	6	0	3	21
		Ir-WRC-LR-2	1	11	1	0	13
	解凍赤血球液-LR「日赤」	FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		FTRC-LR-2	0	0	0	0	0
	照射解凍赤血球液-LR「日赤」	Ir-FTRC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-FTRC-LR-2	2	0	2	0	4
	合成血液-LR「日赤」	BET-LR-1	0	0	0	0	0
		BET-LR-2	0	0	0	0	0
	照射合成血液-LR「日赤」	Ir-BET-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-BET-LR-2	0	0	0	0	0
	合 計		21,017	17,862	12,876	5,788	57,543

* 平成26年8月より、赤血球濃厚液-LR「日赤」RCC-LR、照射赤血球濃厚液-LR「日赤」Ir-RCC-LRは、赤血球液-LR「日赤」RBC-LR、照射赤血球液-LR「日赤」Ir-RBC-LRへ変更。

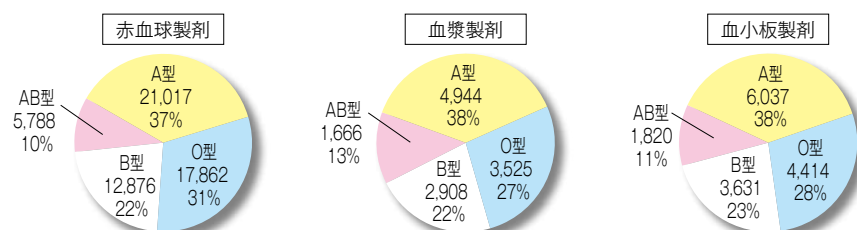
(単位：本)

	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
血漿製剤	新鮮凍結血漿-LR「日赤」120	FFP-LR 120	218	113	105	55	491
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」240	FFP-LR 240	2,953	2,394	1,892	1,068	8,307
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480	FFP-LR 480	1,773	1,018	911	543	4,245
	合 計		4,944	3,525	2,908	1,666	13,043

* 平成25年9月より、新鮮凍結血漿-LR「日赤」FFP-LR-1・FFP-LR-2・FFP-LR-Apは、FFP-LR 120・FFP-LR 240・FFP-LR 480へ変更。

(単位：本)

	販売名	略号	A型	O型	B型	AB型	合計
血小板製剤	濃厚血小板-LR「日赤」	PC-LR-1	0	0	0	0	0
		PC-LR-2	0	0	0	0	0
		PC-LR-5	1	0	7	0	8
		PC-LR-10	49	257	35	71	412
		PC-LR-15	0	0	0	0	0
		PC-LR-20	1	0	0	0	1
	照射濃厚血小板-LR「日赤」	Ir-PC-LR-1	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-2	0	0	0	0	0
		Ir-PC-LR-5	57	33	58	7	155
		Ir-PC-LR-10	5,620	4,030	3,441	1,629	14,720
		Ir-PC-LR-15	21	32	11	8	72
		Ir-PC-LR-20	53	50	46	52	201
	濃厚血小板HLA-LR「日赤」	PC-HLA-LR-10	46	0	6	9	61
		PC-HLA-LR-15	0	0	1	0	1
		PC-HLA-LR-20	0	0	0	0	0
	照射濃厚血小板HLA-LR「日赤」	Ir-PC-HLA-LR-10	185	12	26	44	267
		Ir-PC-HLA-LR-15	3	0	0	0	3
		Ir-PC-HLA-LR-20	1	0	0	0	1
	合 計		6,037	4,414	3,631	1,820	15,902

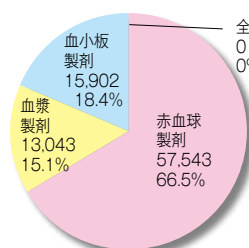


血液製剤種類別供給数(管内)

(単位：本)

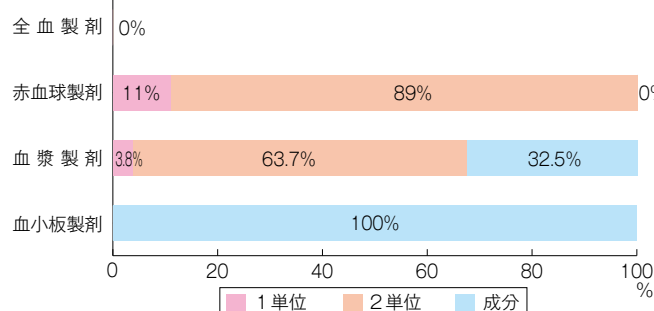
	1単位 製剤	2単位 製剤	成 分				本数合計	換算本数
			5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	6,329	51,214	0	0	0	0	57,543	108,757
血漿製剤	491	8,307	4,245	0	0	0	13,043	46,883
血小板製剤	0	0	163	15,460	76	203	15,902	160,615
合 計	6,820	59,521	4,408	15,460	76	203	86,488	316,255

本数合計

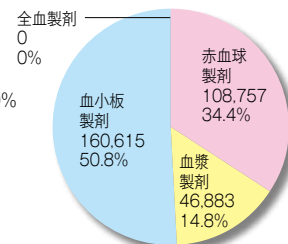


86488本
(実本数)

献血由来別



換算本数

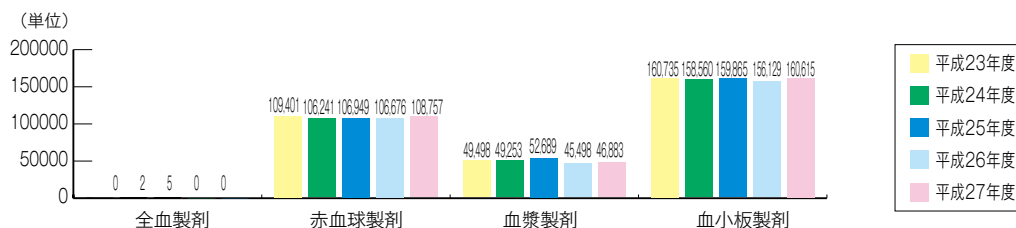


316,255本
(単位：200mL量換算)

輸血用血液製剤の推移 (管内)

(単位：200mL 量換算)

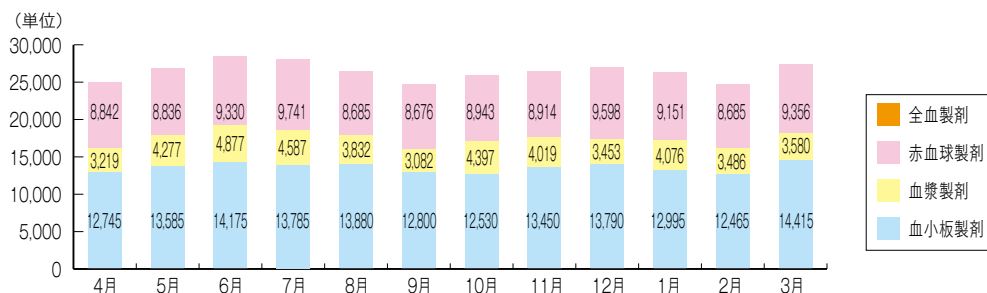
	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合計
平成23年	0	109,401	49,498	160,735	319,634
平成24年	2	106,241	49,253	158,560	314,056
平成25年	5	106,949	52,689	159,865	319,508
平成26年	0	106,676	45,498	156,129	308,303
平成27年	0	108,757	46,883	160,615	316,255



月別供給本数(管内)

(単位：200mL 量換算)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	108,757	8,842	8,836	9,330	9,741	8,685	8,676	8,943	8,914	9,598	9,151	8,685	9,356
血漿製剤	46,883	3,219	4,277	4,877	4,587	3,832	3,082	4,397	4,019	3,453	4,076	3,486	3,580
血小板製剤	160,615	12,745	13,585	14,175	13,785	13,880	12,800	12,530	13,450	13,790	12,995	12,465	14,415
合 計	316,255	24,806	26,698	28,382	28,113	26,397	24,558	25,870	26,383	26,841	26,222	24,636	27,351



平成27年度 表彰 (団体のみ表記)

群馬県と日本赤十字社群馬県支部は、献血協力者への感謝とともに県民各層に対し、一層の献血思想の普及と献血運動の推進を図るため、「献血推進県民大会」を開催し献血のご功労のあった方々を表彰しております。

(敬称略)

■厚生労働大臣 表彰状

学校法人小倉学園 専門学校 群馬自動車大学校

■厚生労働大臣 感謝状

桐和金属協同組合

株式会社 上毛新聞社

三和シャッター工業株式会社太田ドア工場

古河ロックドリル株式会社 高崎工場

東京電力株式会社 群馬支店渋川支社

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院

新潟原動機株式会社 太田工場

株式会社コーセー 群馬工場

株式会社 群馬ピーエスタイヤセンター 前橋SC

富士ゼロックス群馬株式会社

有限会社 総合保険 朋友

株式会社 FPサポート

株式会社 群馬ケイテクノ

株式会社 中央ビジネス

群馬振興株式会社

モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン合同会社

群馬県立太田女子高等学校

学校法人 桐丘学園 桐生第一高等学校

伊勢崎市民病院

城東電機産業 株式会社

株式会社プライムプレイス スマーク伊勢崎

■群馬県献血推進特別功労者 (団体)

群馬県立前橋産業技術専門学校

医療法人社団美心会 黒沢病院

学校法人明照学園 樹徳高等学校

学校法人有坂中央学園 中央情報経理専門学校

ライオンズクラブ国際協会333-D地区 第1R第1Z 桐生中央ライオンズクラブ

大洋電機株式会社 群馬事業所

日本カーリット株式会社 群馬工場

■献血団体 金色有功章 (20年以上)

群馬ヤクルト販売株式会社

公益財団法人群馬県健康づくり財団

上毎印刷工業株式会社

国土交通省関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所

群馬県立高崎特別支援学校

株式会社ユー・コーポレーション

中国化薬株式会社 吉井工場

リンテック株式会社吾妻工場

利根郡信用金庫

■群馬県献血推進協議会長感謝状

GNホールディングス株式会社

群馬日産自動車株式会社 前橋光が丘店

群馬トヨペット株式会社

佐田建設株式会社

システム・アルファ株式会社

関東いすゞ自動車株式会社 前橋支店

三菱ふそうトラック・バス株式会社 北関東ふそう 前橋支店

株式会社コバヤシ商事

有限会社中央電機商会

株式会社マエダスタジオ

■献血団体 銀色有功章 (15年以上)

明和ゴム工業株式会社 前橋工場

オリヒロモアゼリア株式会社

株式会社アイチコーポレーション 新治事業所

積水化学工業株式会社 群馬工場

株式会社ライフエレクトクス

**■献血団体 群馬県支部長感謝状金枠
(10年以上)**

積水ハウス株式会社前橋支店
群馬県立県民健康科学大学
田中貴金属工業株式会社 富岡工場
株式会社吉野工業所 伊勢崎工場
学校法人有坂中央学園 中央医療歯科専門学校
株式会社アドバンテス群馬R&Dセンタ

**■献血推進団体 群馬県支部長感謝状金枠
(10年以上)**

株式会社ジョイフル本田 新田店
株式会社田園都市未来新田 ニコモール

**■献血推進団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)**

カンケンプラザWOW

**■献血団体 群馬県支部長感謝状銀枠
(5年以上)**

関東精機株式会社 江田工場
群馬県立安中総合学園高等学校
群馬県立藤岡中央高等学校
日本光電工業株式会社 カスタマーサービス本部
株式会社アイリス 新田工場
医療法人相生会わかば病院
シオノケミカル株式会社 高崎工場
ハルナファクトリー株式会社タニガワプラント
ハルナファクトリー株式会社ハルナプラント
一般財団法人榛名荘 榛名荘病院附属高崎診療所 はるな脳外科

**■献血推進団体 金色有功章
(20年以上)**

なし

**■献血推進団体 銀色有功章
(15年以上)**

東毛リゾート開発株式会社 館林つつじの里ショッピングセンター

平成27年度迄の献血記録

項 目		年 月 日	献血者数	摘 要	備 考
開 設 以 来 延 献 血 者 数		平成28年3月末日	4,266,736人	自昭和37年11月 至平成28年3月	
開 設 以 来 母 体 延 献 血 者 数		平成10年8月末日	228,910人	自昭和37年11月 至平成10年8月	
開 設 以 来 献 血 ル ー ム 延 献 血 者 数		平成28年3月末日	808,625人	自平成5年10月 至平成28年3月	
開 設 以 来 採 血 車 延 献 血 者 数		平成28年3月末日	3,119,847人	自昭和37年11月 至平成28年3月	
開 設 以 来 出 張 延 献 血 者 数		平成28年3月末日	109,354人	自平成2年4月 至平成28年3月	
年 間 最 高 人 数		昭和60年度	131,336人		
月 間 最 高 人 数		昭和60年7月	13,420人		配車台数114台
母 体 一 日 最 高 人 数		平成7年1月21日	168人		
献 血 ル ー ム 一 日 最 高 人 数		平成10年9月1日	140人	前橋ハートランド オーブニング	
出 張 採 血 一 日 最 高 人 数		平成3年1月7日	230人	県 庁	
採 血 車 一 日 最 高 人 数		昭和60年11月19日	861人		配車台数5台
採 血 車 一 台 最 高 人 数		昭和55年6月13日	311人	渋 川 高 等 学 校	
市 民 献 血 一 日 最 高 人 数		昭和59年2月16日	356人	桐 生 市	配車台数3台
町 民 献 血 一 日 最 高 人 数		昭和63年9月9日	175人	大 間 々 町	
官 庁 献 血 一 日 最 高 人 数		平成2年1月5日	327人	県 庁	配車台数2台
事 業 所 献 血 一 日 最 高 人 数		昭和60年2月27日	596人	沖電気高崎事業所	配車台数3台
大 学 献 血 一 日 最 高 人 数		昭和60年6月26日	311人	群馬大学教育学部	配車台数2台
高 校 献 血 一 日 最 高 人 数		昭和61年1月20日	546人	高崎工業高等学校	配車台数3台
団 体 献 血 一 日 最 高 人 数		昭和54年8月29日	420人	大間々ライオンズクラブ	配車台数2台
施設別年間最高献血本数	市 民 献 血	昭和59年度	2,877人	桐 生 市	配車台数延29台
	町 民 献 血	平成4年度	941人	玉 村 町	配車台数延14台
	村 民 献 血	昭和61年度	724人	笠 懸 村	配車台数延5台
	官 庁 献 血	平成元年度	1,339人	県 庁	配車台数延9台
	事 業 所 献 血	昭和61年度	3,589人	三洋電機東京製作所	配車台数延26台
	大 学 献 血	昭和60年度	1,257人	群馬大学教育学部	配車台数延10台
	高 校 献 血	平成元年度	1,197人	樹 徳 高 校	配車台数延6台
	団 体 献 血（主催）	昭和57年度	1,774人	立正佼成会高崎教会	配車台数延16台
	団 体 献 血（協力）	平成11年度	4,202人	群馬県学生献血推進連合	献血実施場所延72箇所

あ ゆ み 平成 28 年 7 月

編 集 群馬県赤十字血液センター総務課
発 行 群馬県赤十字血液センター
印 刷 上毎印刷工業株式会社

群馬県赤十字血液センター 〒379-2181 前橋市天川大島町2-31-13
電 話 027-224-2118
<http://www.gunma-bc.org/>

 **facebook.**
はじめました！

QRコードをスキャンして
facebook ページへアクセス！





日本赤十字社
Japanese Red Cross Society